

平成 26 年度 横浜市つたのは学園事業計画

横浜市つたのは学園が横浜市より指定管理業務を受託して5年が経過しました。指定管理期間も後半に入り、事業所の役割を日中活動の場を求める知的障害の方々を受け止めるセーフティーネットとしての市立施設、生活介護事業所と明確化していきます。

1. 具体的な取り組みと重点目標

- (1) 利用者数の増加を目指す。
- (2) 日中プログラムを充実させる。
- (3) 地域との連携強化をはかる
- (4) 第三者評価受審で現れた課題を改善する。

2. 管理面について

- (1) 引き続き、厳しい収支状況のため、効果的な予算執行を目指す。
- (2) 常勤換算数に常に注意を払い、加算に該当するかの検証を行う。
- (3) 建物の改修工事としては、更衣室の環境整備等を行う。
- (4) 給食業務は、法人内の栄養士の協力を得て、給食委員会を通し、安全で楽しい食事サービスを目指す。
- (5) 送迎では、安全な送迎を心がけ、週2回の自宅送迎を堅持し、送迎バスの有効活用を図る。
- (6) 日中一時支援事業、短期入所連携システムの安定した運営を目指し、利用者が地域生活を送れるよう、課題を整理する。
- (7) 班会議、業務運営会議、支援会議、職員会議などの各種会議の定期的な開催により、利用者の見方、対応などの共通化を図る。また、行事なども改善を行い利用者の日中活動の活性化を図る。

3. 支援面について

- (1) 職員は利用者が社会の一員として快適な生活を送るために、居住地域や個人的な活動範囲も視野に入れ、将来を見据え、必要な支援を行なう。
- (2) 日中活動では、利用者各自が自らの力を発揮し活動を展開できるようにして、幅広い利用者を念頭にいったカリキュラムを提供し、班の中でもグループ化を図り、支援の独自性と活性化を図る。
- (3) 引き続き嘱託医、訪問PT等の協力を得て、看護師を中心に、計画的な医療カリキュラムの遂行と専門的な医療対応やリハビリテーションの支援を行う。
- (4) 入浴支援が行える環境をいかし、効果的に活用し、充実を図る。
- (5) 送迎用バスがある。体育館を優先的に使用できる。小学校プールを夏休み利用できる等、恵まれた環境を生かした支援内容を行う。
- (6) 毎月第3土曜日はオープンサタデーとして、様々な利用者のニーズにこたえるプログラムを計

画する。

- (7) 人権擁護に関する意識を高め、虐待防止のシステムを構築し、Y ネット(横浜ふくしネットワーク)オンブズパーソンの協力を得て、市民の目を通した意見と、利用者の声なき声を拾い上げ、支援に生かす。

4. 家族会、家族について

- (1) 日常的な連絡、相談、家族との個別面談、家族会などを通して利用者の全体的な生活の充実を図る。
- (2) 利用者がよりよい地域生活が送れるよう事業所とは違う立場で支援していただくよう家族会と連携を密にし、活性化を図りたい。
- (3) 嘱託医の協力を得て、ご家族からの医療的相談を、積極的に実施するよう心掛ける。
- (4) 家庭訪問、個別相談を通し、ご家族との連携を強化する。

5. 地域について

- (1) 10月に地域交流事業として、今年も「つたのは学園まつり」を、長津田地区センター祭り、長津田小学校と合同で開催し、地域との関わりを深める。
- (2) 地域の相談機関としての役割をもち、関係機関や関連団体、地域資源との連絡調整を行う
- (3) 地区センターとの定期協議を通し、一体的な市民利用施設を目指す。また、地区センターとの共催事業を引き続き実施する。
- (4) 災害時の特別避難場所として、マニュアルを見直し、地域の協力を得る。
- (5) 防災訓練は、地区センターと連携し、消防署長津田出張所の指導を仰ぎ、実りのあるものとする。

6. その他

- (1) 外部職員研修、内部研修を積極的利用し、職員の専門性向上を図る。
- (2) 福祉専門職関連資格(社会福祉士・介護福祉士等)取得推進。
- (3) 広報紙・ホームページを充実し、地域や関連団体に施設の理解を深める。